

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立浦和西高等学校)

(A3判横)

目指す学校像	自主自立の精神を生かして、国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼される進学校
--------	---

重点目標	1 確かで高度な学力を確立し、第一志望を実現する質の高い授業の実践 2 地域に信頼され貢献できる生徒の育成 (信頼される人間力の育成) 3 たくましく健やかな心身の育成
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価					
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	学力向上の取組の成果として、大学合格実績は国公立大学で、直近3か年の高水準と同等の合格者数を維持したほか、難関私立大学で過去最高を大きく上回る合格者数を出すことができた (いずれも現役生)。教員の指導が生徒の実態とかみ合って成果を上げており、現在、躍進の時期にある。課題は、新学習指導要領に基づく新たな指導体制の構築、大学入学共通テストの動向把握と指導への反映、コロナ禍の中でも様々な学習機会を保障する取組等である。	高い志を持って目標を設定し、「確かで高度な学力」を身に付け、最後まで諦めることなく第一志望実現に挑む生徒を育成する。	1 「確かで高度な学力」の育成、第一志望の実現 ①県指定事業「大学進学指導拠点校」を中核に据えた組織的・計画的な学習指導・進路指導の推進 ②大学入学共通テストをはじめとする新制度入試の動向把握と生徒への情報提供、新傾向問題の分析と指導への反映 ③進路相談や個人面談等による個に応じたきめ細やかな進路指導の実践	①国公立大学合格者・難関私立大学合格者 (目標：国公立大学現役合格100名以上) ②大学入学共通テストの受験状況	導入2年目となる大学入学共通テストへの対応を進路指導部・学年・教科が組織的に行った。年内入試 (指定校推薦を含む推薦系受験) の受験者数が減少 (昨年度比38%減)、一般受験で第一志望実現に挑戦する生徒が増加した。 ①年内入試における国公立大学現役合格者数7名 (前年9名)。 ②大学入学共通テスト受験率は学年全体の98% (前年97%)。
		「確かで高度な学力」を身につけさせる質の高い授業づくりを推進するとともに、生徒一人一人の進路希望に対応した多彩で効果的な学習機会を提供する。	2 質の高い授業の実践 ①生徒による授業評価アンケートの実施 (年2回)、シラバス「西高CAN-DOリスト」を活用したPDCAサイクルに基づく授業改善 ②「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善 (公開研究授業への参加、授業相互見学の実施等) ③ICTを活用した学習指導の充実 ④新学習指導要領に対応した学習評価の検討	①授業満足度の向上 (前年度87.9%) 「西高CAN-DOリスト」達成度の向上 (前年度82.7%) ②授業見学、研修会、授業互見等の参加教員の増加 ③ICTの活用状況 学習評価」の検討の進捗状況	ICTを活用した授業づくりが学校全体で大きく進展した。高質で高密度の授業により、生徒に確かで高度な学力を身につけさせ、進路希望に対応した多彩で効果的な学習機会を提供した。 ①授業満足度87.7% (前年87.9%) ②CAN-DOリスト達成率82.5% (前年82.7%) ③授業相互見学260回 (前年434回)。 ④「観点別評価」について、教育課程委員会を推進組織として、各教科と連携し、令和4年度の導入に向けて着実に準備を進めている。
2	従来からのメディアを活用しつつ、新規に学校紹介動画、施設紹介「スクールビュー」等を導入し、本校に関する情報発信を拡充させた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底した上で、学校説明会、PTA・後援会主催講演会、斜面林保全活動等の地域連携活動を最大限実施した。本校に対する地域からの信頼は高まっている。課題は、一層充実した情報提供、コロナ禍の中でも、生徒が様々な地域連携活動に参加できる方策の検討等である。	様々なメディアを活用して西高の魅力や情報発信し、開かれた学校づくりを一層推進することにより、地域・県民との信頼関係をより強固なものにしていく。	1 本校の魅力・取組・生徒の活動の発信 ①HP「西高Hot news」等の積極的発信 ②「学校通信」の定期的発信 ③学校説明会の効果的な実施、部活動見学会等の開催 ④PTA・後援会行事の情報発信	①HPの更新回数 ②「学校通信」の発行数 ③入試倍率 ④PTA・後援会・地域住民参加者数	学校ホームページをはじめ、紙媒体の通信・冊子、youtube動画等の多様なメディアを活用するとともに、対面での情報提供にも積極的に取り組み、開かれた学校づくりを推進した。地域・県民との信頼関係を深めた。 ①②学校HP随時更新。「学校通信」6号発行。「部活動紹介」新規発行。 ③12月15日現在の志願倍率1.91倍 (昨年同期1.78倍) ④内山節氏講演会でリモートと対面を併用し、地域からも10名以上の参加があった。
		コロナ禍において、自ら率先して考え、工夫し、地域との交流や社会貢献活動に取り組むことができる生徒を育成する。	2 地域との交流活動・社会貢献活動の実施 ①小・中学校等と連携した交流活動の実施 ②地域との交流活動 (斜面林友の会・地元自治会等) や社会貢献活動 (ボランティア等) への参加促進	①小学校等との交流活動参加者数 ②地域との交流活動参加者数	学校内の行事については、生徒会本部や各種実行委員会を中心に、自ら率先して考え、工夫し、感染症対策と両立させながら可能な限り、実施した。 ①学校外との交流活動は感染拡大防止に配慮し、中止した。 ②「斜面林友の会」の活動は計画通り10回実施した (1月現在)。
3	「自主自立」の教育モットーのもと、生徒の自己管理能力を養い、望ましい行動ができる生徒が増加している。課題は、挨拶の励行、交通マナーの遵守をより徹底していくこと等である。また、社会に貢献するリーダーとしての資質をより一層向上させるため、チャレンジ精神を持って、他者と協働して行動できる生徒を育成していく。	学習面・生活面で自己を管理し、部活動や生徒会活動に積極的に参加することで、「西高力」 (自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力) を育成する。	1 自己管理能力の育成 ①朝学習・家庭学習の奨励・支援 (Classi、スタディサプリ等の活用) ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実 (コロナ禍の中で、自ら考え、工夫し、他者と協働して計画・実施する) ③自己管理能力の育成 生徒会生徒指導部の連携によると挨拶の励行と交通マナーの遵守	①授業以外の自主的学習時間の増加 ②部活動加入率：95%以上 生徒会活動・学校行事の実施状況、執行部参加生徒数の増加 ③年間遅刻者数減少、挨拶の励行、交通マナーの遵守の状況	全校生徒が授業や部活動、生徒会活動に積極的に参加し、学習面・生活面でしっかり自己管理しながら取り組んだ。自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力 (西高力) を伸長させた。 ①1学年で学習支援ツール「スタディサプリ」を導入し、授業以外の自主的学習を促進した。 ②部活動加入率97% (兼部含。前年同95%)。文化祭、体育祭、マラソン大会を実施した。 ③2学期末までの遅刻者数1285 (前年同期898)。交通マナーの遵守を促す「マナーアップキャンペーン」を生徒指導部と生徒会がタイアップして実施した。
		国際社会に貢献し、活躍するリーダーを育成する教育を充実させる。	2 グローバル (国際理解) 教育の推進 ①オーストラリア交流事業 (今年度渡航中止) のオンライン実施 ②ボストン研修事業、エンパワーメントプログラムの参加者数 ③留学生の受入、海外派遣事業への参加	①オーストラリア交流事業の参加者数 ②ボストン研修事業、エンパワーメントプログラムの参加者数 ③留学生の受入人数、海外派遣事業への参加者数	国際社会に貢献し、活躍するリーダーを育成する教育を充実させる。 ①オーストラリア交流事業は中止したが、代替企画として提携校であるタンポリン・マウンテン高校とオンライン交流を2回実施し、計10名が参加した。 ②ボストン研修事業は中止したが、代替企画としてエンパワーメントプログラムを実施し、6名が参加した。 ③留学生の受入は実施しなかった。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	3名
	事務局 (教職員)	11名

(書面審査及び意見書の提出による)

学校関係者評価	実施日 令和4年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題、具体的方策が明確で、評価項目の達成状況も計画に沿って進行している。学校経営がゆるぎなく行われ、生徒の教育がなされていることを高く評価する。 ・コロナ対応の一環として、ICTを活用したオンライン授業の充実が組織的・計画的に大きく進められた。新しい要素を組み込みながら、生徒の授業満足度87%以上を達成したことは評価に値する。PDCAサイクルを効果的に回し、継続的な改善の実施を期待する。 ・個に応じた先生方の進路指導が行われ、生徒が高校での学びを踏まえて自己分析を行い、卒業後の進路を明確にしている。 ・大学入学共通テスト受験率が98%と高い水準にある。学年生徒全体が、高い志を持って高度な学力を身につけ、第一志望実現に挑んでいることを表している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なメディアを活用して西高の教育活動について、保護者をはじめ、広く社会に発信している。 ・昨年度に県民の皆様から、学校説明会への受け入れ人数を増やすよう強い要望をいただいたことに対応し、感染防止に配慮しつつ、学校説明会 (年間6回)、授業公開、部活動見学会を実施した努力を評価する。 ・令和4年度高校入試の志願倍率は1.56倍と、県立高校の普通科で最高だった。西高が地域・県民から信頼を得ていることを示している。 ・コロナ禍の中で、校外に出て交流することが難しいが、感染対策と両立させながら、斜面林友の会の活動など、地域との連携を図ろうとする営みは、学校の在り方や生徒の成長にとっても大きな意味を持つことである。
	<ul style="list-style-type: none"> ・97.1%の高い部活動加入率を維持しながら、年々、進学実績を向上させている。文武両道のもとに生徒が成長する環境を作り上げている。 ・登下校中の生徒たちの様子は、挨拶もにこやかに、私服である服装も清潔感が感じられる。地域の中学校の教職員・生徒・保護者からも好感度が高い。 ・コロナ禍の中、国際交流事業の実施が難しい状況が窺い、夏季にオーストラリアの提携校とオンライン交流を複数回実施した。冬期には、ISAエンパワーメントプログラムを幹事校として催し、浦和高校、浦和第一女子高校、市立浦和高校3校を招き、ハイレベルな研修を企画・実行した。こうした代替事業を積極的に実施し、生徒の成長モチベーションを絶えず高めていこうとする学校の姿勢は誠に素晴らしい。先生方の真摯な教育活動に今後も期待する。